

雪国が育んだ雁木の再生整備手法に関する 調査業務

板垣晋¹・民岡順朗¹・服部和広¹

¹正会員 株式会社オリエンタルコンサルタンツ（〒150-0036 東京都渋谷区南平台町16-28）

雪国固有の暮らしの知恵として整備・補修がなされてきた雁木について、全国でも有数の残存延長であり、雁木を活用したまちづくりを実践している上越市高田地区および長岡市栃尾地区、青森県黒石市を対象に、雁木通りの現状や整備・補修に関する支援策を整理した。また、雁木所有者や雁木通りがある地域住民を対象に、ヒアリング・ワークショップを実施し、雁木の整備に対する意向や期待される効果を把握した。これらの結果から、雁木の整備・保全に向けた方策と方策実施に向けた事業メニュー例を検討・提案した。

キーワード:積雪寒冷地、雁木、まちづくり

1. はじめに

北陸地方には、雪国固有の暮らしの知恵として知られる民地内に歩行者空間を設けた写真-1のような「雁木」が形成されている。近年は、商店の廃業、空き屋、駐車場設置により雁木空間の連続性が失われつつあり、民地にある公共的施設のあり方が保存・再生の課題となっている。

本業務は、北陸地方整備局管内（新潟県、富山県、石川県）のうち、「雁木」が存続している都市を対象とし、雁木整備がまちづくりへ及ぼす影響等について調査し雁木の再整備に関する検討・提案することを目的とするものである。

2. 雁木の分布と残存延長

雁木は、西は鳥取県、北は青森県まで日本海側を中心に広く分布しており、その分布地域は、我が国において豪雪地帯に指定されている地域とほぼ同様の広がりを見せている。

雁木通りの形成された都市の多くは、表-1¹⁾にあるように、新潟県を中心に分布しており、一部、青森県津軽地域にも多く分布していることが見て取れる。なかでも、新潟県上越市高田の雁木通りは、最盛期延長及び現存の残存延長ともに、他都市に類を見ない規模となっている。

表-1 雁木通りの延長



写真-1 雁木及び雁木通りの様子(上越市高田地区)

都市名	所属県名	現在の 残存延長 (m)	最盛期の 延長 (m)
上越市高田	新潟	15,700	17,900
長岡市 ※栃尾市除く	新潟	5,200	11,400
旧栃尾市	新潟	4,300	4,700
加茂市	新潟	3,700	3,900
黒石市	青森	3,500	4,800
旧新津市	新潟	2,400	3,600
与板町	新潟	2,300	3,500
飯山市	長野	2,300	2,600
旧小須戸町	新潟	2,200	2,600
見附市主部	新潟	2,100	3,600

3. 雁木が存続する都市の現状

(1) 雁木・雁木通りの現状

本業務は、雁木の残存延長が全国第3位で中山間に位置し、雁木通りが自然発生的に形成されたとされる長岡市・栃尾地区と、残存延長が全国第1位で平地に位置し、雁木通りが計画的に形成された上越市・高田地区において詳細な実態調査を実施した。

雁木の形式を図-1、両地区の雁木の現況を表-2に示す。両地区とも落とし込み式雁木が主流であり、雁木通りについては、両地区で雁木通り歩道面の縦断方向に段差が散見され、雁木の高さについては栃尾地区のものの方が若干高いものが多い。また、幅員については、栃尾地区の方が広がっている。沿道の状況については、両地区において高齢化や人口密度の低下が懸念される状況にあると言える。

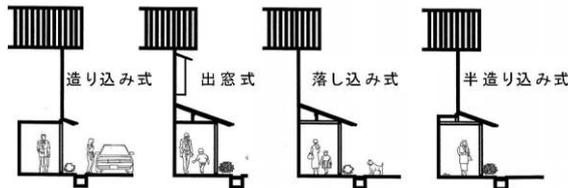


図-1 雁木の形式

表-2 雁木・雁木通りの現状

栃尾地区	高田地区
■地勢	
3方山で囲まれた中山間地。過疎地域に指定。	近世の都市計画で城下町の形成された平地。
■雁木通りの総延長	
4.3kmで全国第3位（最盛期は4.7km）。	16.8kmで全国第1位（最盛期は17.9km）。
■町家の構造	
家屋の造りの多くは妻入り形式で、間取りは通り庭が見られない。	家屋の造りの多くは平入り形式で、間取りは通り庭が見られる。
■雁木の形式	
多くが落とし込み式。	多くが落とし込み式
■雁木通りの段差	
0.10～0.50mで、平均は0.28m。	0.10～0.39mで、平均は0.21m。
■雁木通りの有効幅員	
0.77～4.00mで、平均は1.62m。	0.82～1.70mで、平均は1.44m。
■雁木通り沿道の人口密度・高齢化率	
人口密度 平均は5,679人/k㎡	人口密度 平均は5,760人/k㎡
高齢化率 平均は28.7%	高齢化率 平均は26.6%

(2) 雁木を活用したまちづくり

a) 栃尾地区のまちづくり

栃尾地区では、平成12年より表町において新潟大学の学生との協働による雁木再整備活動が行われている。これは、雁木が途切れている箇所（歯抜け箇所）において、毎年1棟ずつ雁木を新築していくというもので、雁木のデザインはコンペにより選定されるというユニークな取り組みである。

こうした取り組みの結果、雁木の不連続性が解消されることに加え、地元住民と学生との世代間交流が活発化するなど、地域の活性化に大きく寄与していると言える。

その他、地区内の雁木通りを中心に、まちづくりイベント「雁木あいぼ」が毎年開催されている。これらの取り組みに対し、平成13年度・手づくり郷土賞（国土交通省）、平成14年度・地域づくり総務大臣表彰（総務省）などが授与されている。

b) 高田地区のまちづくり

高田地区では、町内会が中心となったまちづくりプランを策定し、同プランの中で、雁木の構造や歩行面などについて共通の基準を定めた「雁木づくりガイドライン（平成13年）」を定めている。

その他にも、栃尾地区と同様に、雁木を活用したイベントの開催といった取り組みも行われている。

また、行政による取り組みとして、雁木の整備・補修に関する支援制度の整備やイベントの開催支援、町屋や雁木の現況調査など総合的な取り組みがなされている。

こうした取り組みに対し、平成17年度・手づくり郷土賞（国土交通省）が授与されるほか、同地区は平成17年度に「わたしの旅100選」（文化庁）にも選ばれている。

(3) 青森県・黒石市の「こみせ」

本業務では、参考事例として青森県黒石市における「こみせ（当該地域における雁木の呼称）」の活用状況に関する調査を実施した。

黒石市では、こみせ通りを含む一帯が国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されており、「こみせ」の活用による以下のような取り組みが行われている。

- 総延長約600mのこみせ通りにおけるまちづくりの実施主体を、TMO「津軽こみせ株式会社」が担い、活性化拠点施設である「津軽石黒こみせ駅」の運営等を行っている。
- TMO:様々な主体が参加するまちづくり事業の企画、調整、運営等を行う機関。
- 黒石市歴史的景観保存事業補助金交付を制度創設し、こみせの保存・保全に活用している。

(4) 雁木の整備・補修に関する既存の支援施策

雁木の整備・補修に関する支援施策については、本業務で詳細な調査を実施した栃尾地区及び高田地区に加え、旧長岡市、与板地区、黒石市において整備されていることが確認された。中でも、高田地区では、補助金の交付に加え、雁木敷地の課税免除などの支援施策がある。

a) 栃尾地区の支援施策

補助対象事業

- ・市とまちづくり協定を締結した地域において、住民等が行うがん木の新設及び改修を行う事業

補助率

- ・補助対象経費の4分の3以内

b) 旧長岡市の支援施策

補助対象事業

- ・都市計画法に定める特定地域である商業地域及び近隣商業地域において、道路内がん木設置基準に適合するがん木を整備する場合

補助率

- ・特定地域内において1区画連続して行うがん木整備事業：25/100
- ・特定地域内において単独で行うがん木整備事業：15/100
- ・長岡市克雪街区計画で指定する路線において行うがん木整備事業（単独・連続を問わない）：25/100

c) 与板地区の支援施策

補助対象事業

- ・与板地域に住所又は事業所を有するものが行う与板地域内のアーケード（道路内に設置されたもの）の塗装又は修理に関する事業

補助率

- ・補助対象事業に直接要する経費の額の4分の3に相当する額

d) 高田地区の支援施策

補助対象事業

- ・地域における雁木部分の修繕もしくは新築又は雁木下部分の段差解消工事

補助率

- ・修繕又は新築 10分の7
- ・段差解消工事 10分の6

e) 黒石市の支援施策

【伝統的建造物群保存地区】

補助対象事業

- ・伝統的建造物、伝統的建造物以外の建築物及び工作物、環境物件、防災に関するもの

補助率

- ・伝統的建造物：9/10

- ・伝統的建造物以外の建築物及び工作物：8/10

- ・環境物件：1/3, 8/10

- ・防災に関するもの：9/10

【景観形成地区】

補助対象事業

- ・建築物のこみせ部分

補助率

- ・建築物のこみせ部分：8/10

4. 住民の意識

(1) 住民意向調査の実施

本業務では、雁木が残る市街地住民の雁木に関する意向・課題を抽出するため、既存調査結果の整理、ヒアリング、ワークショップ等を実施した。

- 平成18年度国土交通行政インターネットモニター北陸ブロックアンケート
- 雁木所有者に対するヒアリング調査（栃尾地区、高田地区で実施）
- 栃尾地区における中学生への雁木に関するヒアリング調査
- 雁木の再整備手法に関するワークショップ（栃尾地区で実施）

(2) 住民意向調査の結果

住民意向調査の結果、大きく以下の4点を雁木に関する課題と捉えることができる。

a) 課題1：歩行空間としての機能向上が必要

雁木通りの主な改善点として、写真-2のような段差の解消、連続性の確保、写真-3のような駐輪自転車等の排除など有効幅員の最大限の確保による歩行空間としての機能向上が必要である。



写真-2 雁木通りの段差



写真-3 自転車の置かれた雁木通り

b) 課題 2：雁木を活用したまちづくりが必要

雁木に関するアンケート結果では、栃尾地区で94%、高田地区では85%の人が雁木が必要であると回答している。また、栃尾地区では79%の人が雁木を整備していくための活動への参加意欲を見せている。

これらのことから、雁木の価値の再認識や、沿道の商店街の活性化・定住促進が必要である。

c) 課題 3：地域のコミュニティ空間としての雁木の活用が必要

遊び場や溜り場など、現在でも雁木空間をコミュニティ空間として利用しており、地域活性に向けた場としての雁木活用が必要である。

d) 課題 4：住民と行政の協働による雁木の維持・管理が必要

雁木空間の保全には、雁木の整備・補修にかかる雁木所有者の負担の軽減が必要である。さらに、雁木の維持・管理には、所有者だけでなく、行政や地域全体の協力が不可欠である。

なお、北陸地方整備局が実施したモニターアンケートの結果によると、41%の人が雁木の整備費用は所有者だけでなく、地域や行政の3者で分担すべきであると回答している。

5. 雁木の整備により期待される効果

ここまでの調査結果から、雁木整備により次の効果が期待できる。

(1) 全天候型の歩行空間の確保

雁木に関するアンケート結果では、栃尾地区で55%、高田地区では80%の人が雁木の整備効果として天候に左右されない点を挙げている。

また、栃尾地区では、平成14年から平成18年までの5年間で、冬期における歩行者の転倒による救急車両の出動件数をみると、全13件のうち雁木通りでの発生件数はわずか3件のみであるなど、雁木により天候に左右されない安全な歩行空間が確保されているものと想定できる。

(2) 安全な歩行空間の確保

高田地区における歩行者対自動車事故の発生状況を見ると、雁木通りでの事故発生率は表-3にあるように、住宅街（東本町3～4丁目）で0%、飲食店街（仲町2～4丁目）で16.7%、商店街（本町2～5丁目）で14.3%であるのに対し、道路の総延長に占める雁木通りの割合はそれぞれ14.7%、23.9%、26.4%となっている。

このことから、雁木通りでは歩車分離が図られることにより、歩行者対自動車事故が発生しにくい状況となっていることが伺える。

このように、雁木の整備とあわせて、路面のバリアフリー化を進めることで、誰もが安心して歩ける歩行空間を実現することが期待できる。

表-3 高田地区における事故発生件数及び道路延長

	住宅街	飲食店街	商店街
全事故件数	3件	6件	7件
雁木通りの件数	0件	1件	1件
雁木通りでの事故発生率	0%	16.7%	14.3%
道路の総延長	9.65 km	6.96 km	4.44 km
雁木通りの延長	1.42 km	1.66 km	1.17 km
総延長に占める雁木通りの割合	14.7%	23.9%	26.4%

(3) コミュニティ空間の確保

モニターアンケートの結果では、雁木の整備がまちづくりに与える影響として「地域住民のコミュニケーションが高まる」との回答が21%と2番目（1番目は、「歩行者の安全性が確保できる」45%）に多い回答であった。

ヒアリング結果においても、雁木空間を溜まり場・遊び場として利用しているとの意見が挙がるなど、雁木空間は安全な歩行空間にとどまらず、地域のコミュニティ空間として今後も活用されることが期待できる。

(4) 地域らしさの創出と街並み形成への寄与

青森県・黒石市のこみせ（雁木）を活用したイベント「黒石こみせまつり」の来場者数は、平成13年に16千人であったものが年々増加し、平成17年では25千人と4年間で約1.6倍になっている。

枳尾地区の「雁木あいぼ」や高田地区の「越後高田町屋三昧」といった雁木を活用したまちづくりイベントについても地域に賑わいをもたらしている。

このことから、雁木通りが統一感のある街並みや地域らしさを醸しだし、さらには、雁木を活用したイベントが地域の賑わいと交流機会を創出していると言える。

(5) 雁木がもたらす経済的価値（歩道の維持・管理費の節減）

枳尾地区では、図-2のように年間約89万円/km（平成13～17年の平均）の除雪費用を要しているが、雁木通りでは、こうした歩道の除雪費用は不要になる。

その他の維持管理についても、雁木通りでは主に雁木の所有者または地域住民の協働により実施しているため、雁木を整備することで歩道の維持・管理費の節減が見込まれるなど、経済的価値を有していると言える。

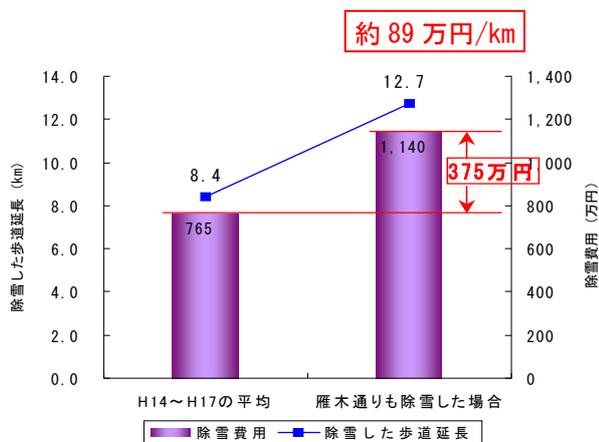


図-2 枳尾地区における歩道除雪費用の比較

6. 雁木の整備・保全に向けた方策

雁木の整備により期待できる効果を鑑み、雁木及び雁木の存続する都市における課題に対する解決策として、以下のような方策が考えられる。

(1) 雁木の整備・補修・保全に対する経済的支援

雁木通りにおける段差の解消、雁木通りの連続性

の確保、雁木の整備・補修に係る雁木所有者の経済的負担の軽減といった課題に対する解決方策として、写真-4のような雁木所有者或いは雁木を有する地域に対し経済的な支援の実施が考えられる。

(2) 街なか歩行空間の利便性の向上と安全性の確保

雁木通りにおける段差の解消、雁木通りの連続性の確保に加え、雁木通りにおける有効幅員の確保といった課題に対する解決方策として、図-3のような街なか歩行空間の利便性の向上と安全性の確保を図っていくという方策が考えられる。

(3) 雁木の保全・活用による地域らしさの創出

雁木通り沿道商店街の魅力・活力の向上、雁木の観光資源としての活用、車社会における雁木の価値の再認識といった課題に対する解決方策として、図-4のような雁木の保全・活用による地域らしさの創出を図っていくという方策が考えられる。



写真-4 補助金の活用により新設された雁木



図-3 誰もが安心・快適に歩行できるまち



図-4 特徴ある街なみが形成されたまち

(4) 雁木の整備・保全に向け必要な事業メニュー

これまでに整理した方策を実施していくにあたり、必要であると考えられる事業メニューを以下に例示する。

- ・ 条例または要綱による支援制度の枠組みづくり
- ・ 雁木の整備・補修工事への補助金交付
- ・ 雁木通りの段差解消工事への補助金交付
- ・ 雁木敷地に対する課税免除
- ・ 雁木通り沿道駐車場の集約化
- ・ 雁木に関する勉強会・ワークショップの開催支援
- ・ 母屋・雁木の建て替え・修復時に適切なアドバイスの実施
- ・ 雁木通り沿道へのまちなか交流拠点の整備
- ・ 地域独自のルールづくりに対する支援
- ・ 雁木を活かしたまちづくりイベントの開催支援
- ・ 地域内ボランティア活動の支援 など

7. 今後の課題

本業務は、長岡市・栃尾地区及び上越市・高田地区を中心とした調査を実施したものであり、北陸地域における雁木が存続する都市の実態を十分に把握しきれていない。

今後、北陸地域全域で活用可能な雁木の整備・保全に関する支援施策について検討を進めていくためには、雁木の残存状況や雁木の整備・保全に関する支援施策の有無、といった実態について調査する必要がある。

また、雁木通りにおいては、木造の家屋が密集しているケースが多く、準防火地域に指定されるなど、防火上の理由から雁木の保全が困難な地域がある。従って、このような地域において、地域全体で取り組む防火対策や関連する条例の検討、防火・耐火性雁木の構造・デザインの検討が必要である。

雁木を活用したまちづくりを各地に展開するには、全国における雁木を活かしたまちづくり活動に関する情報を収集し、その情報を活用したまちづくり活動の拡大や他地域との交流促進方策について検討する必要がある。

8. まとめ

雁木は雪国固有の暮らしの知恵であるにも関わらず、雁木の延長は現存するいずれの地区でも最盛期延長に比べ短縮しているのが実態である。これには雁木所有者の土地利用意向の変化や、維持管理コストの負担などが主たる要因と指摘できる。

一方、雁木の保全や整備に地域ぐるみで取り組み、地域らしさを創出するとともに、コミュニティが活発化し、地域が元気になるなど、まちづくりに好影響をもたらす可能性を秘めていることが本業務において明らかとなった。

雁木は冬期の歩行空間はもとより、安全で住みやすい地域環境の実現と地域の活性化に大きく寄与するものであり、地域全体で保全・活用されることが望まれる。

参考文献

- 1) 氏家 武：雁木通りの地理学的研究, 株式会社古今書店, pp. 480-481, pp. 496-497, 1998.